

平成 21 年 4 月 9 日現在

研究種目： 基盤研究(C)
 研究期間： 2006 ～ 2009
 課題番号： 18591778
 研究課題名 (和文) 前立腺癌骨転移責任遺伝子の同定と組換えHSVによる癌ワクチン治療
 研究課題名 (英文) Identification of a disease gene in prostate cancer and treatment with genetically modified Herpes Simplex Virus.
 研究代表者 勝岡 洋治
 大阪医科大学・医学部・教授
 研究者番号：10051757

研究分野：医歯薬学

科研ひの分科・細目：外科系臨床医学・泌尿器科学

キーワード：(1) HSV (2) 前立腺癌 (3) PSM (4) サバイビン (5) splice variants

1. 研究計画の概要

HSV におけるウイルス自体の細胞障害性と複製という特性を利用して、“特定の腫瘍細胞のみで HSV の複製をおこさせる組み換え HSV” を作成し標的細胞のみを殺傷する、癌治療を対象とした新しい見地からの遺伝子治療を前立腺癌に焦点をおいて検討している。

2. 研究の進捗状況

前立腺癌におけるサバイビン及びその splice variants の骨転移におけるマーカーとしての有用性、および survivin-発現特異的殺傷ヘルペスウイルス作成についても検討している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
 サバイビン遺伝子の2種類の splice variant (survivin-2B と survivin-Ex3) について、予備実験において組織学的悪性度および MIB-1 index とサバイビンおよび survivin-Ex3 が正の、また survivin-2B が負の相関を示唆する結果を得た。

4. 今後の研究の推進方策

サバイビン及 2 種類の splice variant (survivin-2B と survivin-Ex3) の発現パターンと、組織分化度、および転移の有無における相関関係を検討し、骨転移におけるマーカーとしての有用性、および survivin-

発現特異的殺傷ヘルペスウイルスの臨床的治療効果についても今後検討を加える予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)
Azuma H, Sakamoto T, Kiyama S, Ubai T, Kotake Y, Inamoto T, Takahara K, Nishimura Y, Segawa N, Katsuoka Y.
Anticancer effect of combination therapy of VP16 and fosfesterol in hormone-refractory prostate cancer.
 Am J Clin Oncol. 2008 Apr;31(2):188-194.

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]
 ○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]